

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1188

令和7年3月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



スモモの花の蜜を吸うメジロ (大阪市内)

トピックス: 創設110年を迎える保護林制度に見る国有林野の歴史(計画課)

ニュース: 岡山森林管理署、森林整備課、資源活用課

花草木: ツルニチニチソウ

我が署のスタッフ: 京都大阪森林管理事務所

森林事務所等紹介: 浜坂森林事務所 (兵庫森林管理署)

国有林最前線: 滋賀森林管理署

創設 110 年を迎える保護林制度に見る国有林野の歴史 ～近畿中国森林管理局管内で最古に設定された保護林を探せ！～

【計画課】

国有林では、原生的な森林生態系を有する森林や希少な野生生物が生育・生息する森林など、生物多様性の核となる国有林野を「保護林」に、保護林と保護林を結ぶ森林生態系のネットワークを「緑の回廊」に設定しています。

これらの保護・管理を厳格に行うことで、原生的な天然林や希少な野生生物の生育・生息環境の保全に取り組んでいます。

大正 4 年（1915）にスタートした保護林制度は、令和 7 年（2025）に創設から 110 周年を迎えます。そこで、保護林の情報を適切に整理し正しく発信するためにも、近畿中国森林管理局（以下当局）で最古に設定された保護林がどこかを、過去の文献を調べて紹介していきます。

▶調査内容

○調査した文献

「大阪営林局事業統計書」「大阪営林局統計書」

「国有林野一班」「国有林野事業統計書」「国有林野統計書」

「福田淳,1994, 国有林における保護林制度の変遷 森林文化研究第 15 巻 pp13-pp38」

○調査結果は以下の表のとおりです。

（表 調査結果）

保護林名（当時）	設定年	設定目的＊1	現在の保護林名＊2
嵐山保護林	大正 4 年12月	名勝、旧蹟ノ風致ヲ助長スル為 必要ナルモノ	現在はレクリエーションの森
恵下谷山保護林	大正 5 年 8 月	学術及施業上ノ考証ノ為	恵下谷山スギ・モミ・ツガ遺伝資源希 少個体群保護林 恵下谷山コウヤマキ希少個体群保護林
滑山保護林	大正 5 年 8 月	学術及森林施業上ノ考証ノ為	滑山アカマツ・モミ・ツガ等遺伝資源 希少個体群保護林
高野山保護林	大正 7 年 9 月	学術及施業上ノ考証ノ為	高野山コウヤマキ希少個体群保護林

＊1 設定目的は、昭和 10 年度の大阪営林局統計書より

＊2 事業統計書に記載されていた保護林の面積や林小班、設定理由等と、現在の保護林の面積、林小班とを比較し、「現在の保護林名」を推定

当局管内で最古に設定された保護林は、大正 4 年に設定された**嵐山保護林**でした。しかし、当該国有林は現在、レクリエーションの森になっているため、現存する保護林の中で最古となるのは、大正 5 年に設定された**恵下谷山保護林**と**滑山保護林**になります。

また、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産にも認定されている高野山も、当局管内における最古ではないですが、大正7年に設定された歴史ある保護林です。

▶最近の保護林に関する取組

今年度、新たに保護林・緑の回廊マップと保護林ミニガイドを作成しました。こちらは、当局 HP 上で閲覧いただけます。

○ 保護林・緑の回廊マップ

当局管内のどこに保護林や緑の回廊が位置しているのかを、一目で分かるよう位置図を載せました。管内全ての国有林の位置だけでなく、国立公園や国定公園、主要河川などの情報も載せていますので、様々な用途にご活用いただけます。

○ 保護林ミニガイド

当局管内の保護林の紹介や、国有林の写真をふんだんに載せたミニガイドは、管内 14 署イチ押しの保護林を紹介しており、コラムや Q & A など、読み応えのあるものになるよう工夫しています。当局庁舎の 1 階にある「森林（もり）のギャラリー」には、紙媒体を見本として置いてありますので、お立ち寄りの際はぜひご覧ください。



保護林・緑の回廊マップ



保護林ミニガイド「保護林に行く」

保護林制度は今年で創設 110 年の節目を迎えます。国有林野を取り巻く社会情勢が大きく変化し、国民からの要請が多様化する中、保護林や OECM といった生物多様性を保全しうる地域への期待は、一段と大きくなっています。

近畿中国森林管理局では、国有林野の生物多様性の保全を図り、生物多様性国家戦略に掲げる国際目標にも貢献するため、さらには、貴重で豊かな我が国の動植物や美しい自然を次世代に残すため、これからも保護林や緑の回廊の適切な保全・管理に努めてまいります。

にちなん中国山地林業アカデミーの視察を受け入れました。

【岡山森林管理署】

岡山森林管理署では、2月13日（木）、にちなん中国山地林業アカデミー（以下アカデミー）の生徒8名を受け入れ、講義及び実習を行いました。



講義の様子

午前中は署の会議室において、管内概要を説明した後、鳥獣被害対策を題材に有害鳥獣の生態及び被害状況、防護柵等による被害防止対策、捕獲による防除等について講義を行いました。



防護柵の説明

午後からは、大戸山国有林（岡山県久米郡美咲町）に移動し、植栽地に設置した防護柵を視察し、立木を利用した設置方法や安価なアニマルネット※の使用など造林の低コスト化について説明を行いました。

アカデミーの生徒は、熱心に講義を聞き、現地視察においては防護柵に直接触れたり、写真を撮影するなど、興味を持った様子で、防護柵の設置方法や点検の頻度などについても、積極的に質問していました。

※獣害対策用のポリエチレン製のネット

「令和6年度 造林・生産事業等に係る林業事業体等との意見交換会」を開催しました。

【森林整備課】

近畿中国森林管理局では、森林整備事業の円滑な実施に向け、事業実行上の留意事項や入札・契約に係る手続き等について情報提供を行うとともに、林業事業体等の方々からご意見等を伺うため、2月26日（水）に造林及び生産請負事業体等を対象とした意見交換会を開催しました。



局長の挨拶

当日は、桜ノ宮合同庁舎大会議室をメイン会場に、管内各森林管理署等の会議室をサブ会場として、Web会議システムを併用する形で開催し、全体で53の事業体の皆様にご参加いただきました。まず局長から挨拶の後、情報提供を行い、意見交換に進みました。



メイン会場の様子

意見交換では、「早期発注はほとんどの事業体喜んでいと思う」「冬下刈りの取組に感謝している」など当局の取組に対して肯定的な声があった一方で「素材公売では資金繰りが厳しい」「資材価格が上がって考慮してほしい」といったご要望なども出され、今後、国有林野事業を運営していくうえで貴重な情報を得ることができ、有意義な意見交換会となりました。



説明する森林整備部長

当局では、林業事業体の皆様からいただいたご意見をしっかりと検討し、森林・林業・木材産業の発展に引き続き努めてまいります。

今回の意見交換会の概要や資料については、当局のホームページに掲載します。

「近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を開催しました。

【資源活用課】

近畿中国森林管理局では、木材価格急変時に国有林野の有する供給調整機能を発揮させるため、「近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会（以下検討委員会）」を設置し、国有林材の供給調整の必要性や実施する際の方法等について、学識経験者、林業関係者、木材産業関係者からご意見をいただくこととしています。

この度、2月28日（金）に今年度4回目の検討委員会を開催しました。



委員会の様子

冒頭、木材の需給動向等について事務局（近畿中国森林管理局）から説明を行い、続いて各委員より、原木の価格動向、山側からの出材状況、木材流通の現況・製材工場の稼働状況、バイオマス発電所の状況などの報告を受けた後、国有林材の供給調整の必要性等について検討を行いました。

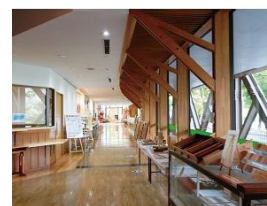
委員からは、地域の木材需給の状況について、住宅需要が低調なため製材品の需要は芳しくないが、一方で、チップ用材の需給はひっ迫している等の意見が出されました。

近畿中国森林管理局では、委員会での審議を踏まえ、引き続き地域の木材需給の動向等に注視しつつ、国有林材の安定供給に努めていく考えです。

第4回の検討委員会における検討結果等については、当局ホームページに掲載します。

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○3月6日（木）～3月27日（木）の展示は、大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター、日本木材加工技術協会 関西支部 早成植林研究会、近畿地方環境事務所です。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【治山課・石川森林管理署】

○令和6年能登半島地震・奥能登豪雨に伴う奥能登地区民有林直轄治山事業等に係る説明会の開催について等「令和6年能登半島地震・奥能登豪雨」に関する情報を公開しています。詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/notohantoujisin240101.html>



【総務課】

○近畿中国森林管理局では、国民の皆様への情報発信を推進するとともに、人材の確保・育成にも資することを目的に「動画ワーキングチーム」を設置し、若手職員が中心となって動画の作成に取り組んでいます。新進気鋭な職員ならではの感性で熱意とやる気が伝わる内容となっています。ぜひご覧いただけると幸いです。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/2023douga_r5.html



花草木

【ツルニチニチソウ】

ツルニチニチソウ（蔓日々草、学名：Vinca major）は、草丈 20cm ～ 30cm 程になるキョウチクトウ科のつる性多年草です。茎は匍匐（ほふく）して地面や石垣などを這い、節から根を出し広がって増えます。

ツルニチニチソウの花は、3月～6月頃まで開花します。花茎は直立し、径 3cm ～ 5cm 程の青紫色の花を単生させます。

花びらは筒部が細く、裂片は先が 5 裂してスクリュー状に平開し、雄しべは 5 個、雌しべは 1 個あります。



大阪市内の公園で咲いていたツルニチニチソウの花

ツルニチニチソウという名前は、つる性の「ニチニチソウ（日々草）」という意味から名付けられました。

ツルニチニチソウは、アルカロイドが、全草に含まれる有毒植物です。間違って食べてしまうと心機能障害、痙攣、筋肉麻痺、嘔吐などの症状があるため注意しましょう。

ツルニチニチソウの花言葉は「楽しき思い出」「幼なじみ」。

我が署のスタッフ

京都大阪森林管理事務所

松永 純弥（まつなが じゅんや）（令和 6 年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループや地域技術官とともに造林事業や測量関係の業務に携わっているほか、車両管理や丸太・製材品の市況調査に携わっています。入庁して約 10 か月が経ちますが、いまだに慣れないことも多く、少しずつ日々の業務をこなしています。

【職場の雰囲気は？】

話しかけやすい雰囲気や、分からないことを質問しやすい環境です。自分の担当外の治山などの現場へも OJT として行く機会が多いのでとても勉強になります。

【林野庁の魅力は？】

新人研修の手厚さや、業務内容がデスクワークだけでなくフィールドワークもある点がいいところだと思います。高校で習ったとはいえ、森林や林業についての知識が不安でしたが、基礎からしっかりと研修で学ぶことができるためその点は安心でした。パソコンと向き合うだけでなく、山の中で仕事をするので自然や体を動かすのが好きな私にはぴったりな仕事です。



苗木の成長量（高さ）を調査している様子

森林事務所等紹介

浜坂森林事務所（兵庫森林管理署）

首席森林官 早瀬 亙（はやせ とおる）

兵庫森林管理署浜坂森林事務所は、兵庫県北西部の日本海に面した美方郡新温泉町^{みかた}に所在しています。管轄区域は但馬地域の豊岡市・養父市^{やぶ}・朝来市^{あさこ}・美方郡香美町^{かみ}及び新温泉町の3市2町に跨り、国有林野約4,300ha、官行造林地約1,800haの面積を管理しています。

特徴となる事業としては、国有林野内に希少な野生動物の生育・生息地等を保護・管理する保護林を設定し、これら保護林を繋ぐ森林を「東中国山地緑の回廊」に設定し、野生生物の移動経路を確保することで、より広範かつ効果的な森林生態系の保全を図っています。



古生沼のある山頂付近の遠景

兵庫県と鳥取県の県境に位置する四ヶノ仙^{しかのせん}国有林及び奥山国有林を「四ヶノ仙奥山高地湿原等植物群落保護林」に指定しており、山頂に近い標高1,460m地点には兵庫県の天然記念物に指定されている「古生沼（こせぬま）」があります。昭和12年には高名な植物学者である牧野富太郎氏が調査に訪れたほどの希少な湿原で、ヤチスゲ、エゾリンドウ、ツマトリソウ、バイケイソウなどの氷河期の植物を見ることができます。

駐車場から古生沼までは、所要時間が90分ほどかかりますが整備された登山道があり、日本アルプス等の高地に行かないと見ることができない希少植物を手軽に見ることができるので、一度は訪れて欲しい場所です。

一方で、20年ほど前からニホンジカによる希少植物の食害や踏みつけ被害が増加し、放置すると貴重な植物が絶滅するおそれがあることから、令和6年3月28日に兵庫森林管理署と養父市が「古生沼の高地湿原植物群落外における植生保護の推進に関する協定」を結び、国・市・研究者・地域のボランティアが協力しながら、ニホンジカの侵入を防ぐ高さ1.8mの獣害防護柵の維持修繕を行っています。

貴重な自然環境を将来の世代に残すために、積極的に保全活動を行っています。



獣害防護柵設置の様子

シリーズ『国有林 最前線！』

地域の森林・林業の発展に貢献できる取組

滋賀森林管理署

滋賀県にある伊吹山（標高 1,377m）は国有林ではありませんが、滋賀県最高峰の山で、日本百名山に選定されており、かつて牧野富太郎がたびたび訪れ、伊吹山特有の貴重な植物が見られることで知られています。山頂付近は「伊吹山頂草原植物群落」として国の天然記念物に指定されています。

しかし近年、増加したニホンジカの食害によって植生が少なくなり山肌が露出する状況になり、令和 6 年



伊吹山（滋賀県米原市）

7 月の豪雨により大規模な土砂崩れが 3 回発生しました。このため米原市は、被害の拡大防止のため、ニホンジカの捕獲強化などに取り組んでいるところです。

滋賀森林管理署はこれまでも民有林支援の取組を行っており、令和 5 年 7 月の豪雨の際には、大量の土砂が流出した 3 合目から頂上付近の状況把握のため、ドローンにより被害状況を撮影した画像（オルソ画像や植生指数画像）を米原市に提供しました。

また、当署は、米原市とは以前よりニホンジカの捕獲協定を締結し、市内の国有林及び周辺の民有林において、連携してニホンジカの捕獲に取り組んでいたことから、本協定による取組みの一環として、伊吹山に設置する ICT 囲い罠を貸与しました。令和 7 年 2 月には、一部残雪のある伊吹山の中腹付近で、米原市の職員

6 名を対象に小林式誘引捕獲法（くくり罠）の出張講座を行いました。講座では、署の職員が小林式誘引捕獲法の概要や、設置方法の注意点を説明しながら実演を行い、その後、職員の指導のもと実習を行い、参加者は小林式誘引捕獲法のノウハウを習得しました。



くくり罠設置方法の実演

滋賀森林管理署では、引き続きニホンジカ捕獲対策をはじめ、地域の森林・林業の発展に貢献できるよう取り組んでまいります。